

国際ビジネス・コミュニケーション1(前期)

月曜3限・学部・2.0単位

中嶋 圭介

(Nakashima, Keisuke)

2013年4月8日 (Lecture 1)

神戸外大・1AV教室

今日のアジェンダ

- 自己紹介
- コース概要の説明
- 今後のスケジュール
- 名刺作成について(おまけ)
- 次回までの課題

自己紹介

- AUS・NZ親善大使
- 神戸外大・英米学科 ~ ボストン留学
- 米シラキュース・大学院留学
- 米ワシントンDCで就職、地球高齢化との出会い
- 神戸外大・法経商コースへ



コース概要の説明 (1)

□ 主題と目標

職業的、実務的英語運用能力の向上に主眼を置く。国内の日系・外資企業の職場を想定した英語力だけでなく、海外企業や国際機関での就職や業務遂行も視野に入れ、適切な英語表現の知識習得に留まらず、マナー、スタイル、スキルを含めたコミュニケーション術を学ぶ。英文で履歴書、略歴、カバーレターを作成し、Informational Interview (欧米の就職活動で一般的なキャリア形成上のアドバイスを仰いだり業界情報を収集する面接) に出掛け、教室で得られる知識を踏まえて実体験からも学ぶ。

□ 評価の方法・基準

出席(30%)、提出課題 (20%)、Informational Interview の結果報告(クラス内でのプレゼンテーションと報告書、各25%) によって評価する。学期を通してチーム・リーダーを務めた者は、追加(2%)評価点を与える場合がある。

コース概要の説明 (2)

□ 履修にあたっての注意

- 5回以上の欠席者に単位は認めない。
- 欠席時は、事前にメール連絡すること。
- PC メールアドレスを初回授業で提出すること。
- 一方的なレクチャー形式や知識の詰め込みではなく、教員と学生間の質疑応答、学生間の情報共有や互いの経験から学びあうことを重視。
- 多くの課題はグループ・ワークで行う。無断欠席や履修離脱者は、他のメンバーに大きな迷惑をかけることになる。「履修変更期間」を終えるまでに、履修継続・離脱の意思を明確に。

□ 教科書

- ウェブ上で入手可能なものを中心に使用する。
- 授業の関連資料を、以下のウェブで掲載する。学生自身で印刷して目を通し、授業に持参する場合もある。<http://www.knakashima.net/lectures>

コース概要の説明 (3)

□ 指定図書

無し。

□ 講義内容

- 前半は、受講者の多くが国際ビジネスでエントリーレベルからキャリア形成を目指すステージにいることを踏まえ、就職ガイダンスの要素を含んだ内容。
- 英文履歴書、略歴、カバーレターの書き方：ポイント解説、サンプル収集、初稿執筆、ピア・レビュー、添削、編集を経て、最終版を三点セットで提出。
- 後半は、各グループで Informational Interview: ポイント解説、訪問先検討、アポ取り、面接、クラス内プレゼン、報告書の提出。

コース概要の説明 (4)

□ オフィス・アワー

特に決まった曜日・時間は設定していない。

事前にメールでアポを取ること。

授業に関わること、関わらないこと(就職・留学・その他)、歓迎です。

E-mail: info@knakashima.net

研究棟 807号室

今後のスケジュール

第1回講義: 4月8日——コース概要の説明

第2回講義: 4月15日——チーム編成、略歴・履歴書(日本語)・履歴書(英語)の書き方(1)

第3回講義: 4月22日——履歴書(英語)の書き方(2)

第4回講義: 4月30日(火曜に月曜の講義)——履歴書(英語)の書き方(3)、
Informational Interview の解説(1)

第5回講義: 5月13日——Informational Interview の解説(2)

第6回講義: 5月20日——Informational Interview の解説(3)

第7回講義: 5月27日——Cover Letterの書き方(1)

名刺作成について

□ 名刺を持つことの意味

重要なコミュニケーション・ツール
特に北東アジアは強い名刺文化
名刺を使うような就職活動

□ 名刺の作り方

PCで自作・プリントアウト
生協・印刷屋などで発注
オンライン注文

例) <http://www.vistaprint.jp>

□ 名刺の作成例

名刺を作ってみよう(表・日本語)

KOBE CITY UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES



中 嶋 圭 介

外国語学部 英米学科 (2012年3月卒業予定)

現学年ではなく卒業予定
年月を書くのがポイント。

- 1) 卒業まで同じ名刺を使える
- 2) 就職のタイミングを伝える

〒651-2187 神戸市西区学園東町9-1
Tel: (078) 794-XXXX
Fax: (078) 792-XXXX
E-mail: XXXXXXXX@XXXXXXX.co.jp
www.knakashima.net

名刺を作ってみよう(裏・英語)



KOBE CITY UNIVERSITY
OF FOREIGN STUDIES

Keisuke Nakashima

Candidate, B.A. in Anglo-American Studies
(expected in March 2012)

英語表記の場合、学位
と学科を併記する。
Bachelor of Arts (文学
士)の略。

9-1, Gakuenhigashi-machi, Nishi-ku
Kobe 651-2187 Japan
Tel: +81-78-794-XXXX
Fax: +81-78-792-XXXX
E-mail: XXXXXXX@XXXX.co.jp
www.knakashima.net

次回までの課題 (1)

□ 次回までの課題

1. 日本語で履歴書を作成——WEBから日本語履歴書のワード・テンプレート入手し、作成。住所、電話など、個人情報欄は空欄のままでOK。現段階で自分の将来の就職志望を想定して、その他の項目を埋める。
2. ワン・パラグラフ形式の略歴を日本語で作成

提出の仕方

ワード・ファイルで作成。4月14日(日)午後9時までにメール提出
info@knakashima.net

注1)ファイル名： 学籍番号_苗字 (例： A12345_Nakashima)

注2)常時コンタクト可能なPCメールアドレスより送信 (何か不備があるときは、こちらから返信して尋ねる場合があります。)

次回までの課題 (2)

□ ワン・パラグラフ形式の略歴

中嶋圭介 (なかしま けいすけ)

兵庫県〇〇市生まれ。兵庫県立豊岡高等学校普通科卒。現在、神戸市外国語大学・外国語学部英米学科4年生。

1) 留学経験

2) 学術的な関心: 専門は…(…に関心を持つ。/〇〇ゼミに所属し、特に…を学んでいる。)

3) 出版物: もし何かあれば。

4) 課外活動: サークル・インターンシップ・ボランティア活動など。

5) 将来のキャリア・プラン: 業界・職務・キャリアを通して実現したいこと。

次回までの課題 (3)

略歴(例:学生編)

中嶋 圭介(なかしま けいすけ)

兵庫県豊岡市(旧・城崎郡日高町)生まれ。兵庫県立豊岡高等学校普通科卒。現在、神戸市外国語大学英米学科4回生。1997年5月～1998年3月、米国マサチューセッツ州ボストンに留学。Newbury Collegeで社会学を専攻。神戸外大では、英米法、国際取引法を研究テーマとするゼミ(植田淳教授)に所属。日米の法意識の違いについて卒業論文の作成に取り組んでいる。将来は、米国大学院で国際関係学を学び、国際機関での就職を希望している。

学外では、神戸大学をはじめ関西圏の大学で共同運営するスキーサークル「プリンス」に幹部兼インストラクター(初心者担当)として参加。シーズン中は、信州への大規模ツアーを企画・運営する。この他、1998年7月、国際青年の村(総務省・新潟県主催)にスタッフとして参加。イベント運営全般のサポートに加え、11か国の参加者を交えたディスカッションのコーディネーターを務める。1990年8月、オセアニア交流協会の親善大使最年少メンバーとして、オーストラリア・ニュージーランドに表敬訪問、文化交流を行う。

次回までの課題 (4)

略歴(例: 社会人／専門家編)

中嶋 圭介(なかしま けいすけ)

神戸市外国語大学 外国語学部 法経商コース 准教授

兵庫県豊岡市(旧・城崎郡日高町)生まれ、神戸市在住。神戸市外国語大学英米学科卒、シラキュース大学行政大学院・国際関係学修士。大学院在学中の2002年より、米国ワシントンDC所在のCSIS戦略国際問題研究所・地球高齢化研究部にてインターンを務め、研究助手、研究員、部長補佐&主任研究員を経て、2011年3月より非常勤研究員。日本へ帰国し、同年4月、神戸市外国語大学外国語学部・法経商コース・専任講師に就任。2013年4月より現職。2011年6月～2013年3月、リコー経済社会研究所社会構造研究部客員主任研究員を兼務。

専門は、地球規模で進行する人口動態変化(地球高齢化、またはグローバル・エイジング)が、財政、経済、社会、ビジネス、国際関係などに与える影響分析と政策提言。共著に、3・11で現実化した「成長の限界」が日本を再生する(2011); *Global Aging and the Future of Emerging Markets* (2011); *The Global Aging Preparedness Index* (2010); *China's Long March to Retirement Reform* (2009); *The Aging of Korea* (2007) など。